

フロイント産業株式会社
「経済産業省認定GNT企業」

JASDAQ
(証券コード 6312)

2020年2月期 決算説明資料

2020年5月1日

 **FREUND**

目次

- 2020年2月期 連結決算概況 . . . P.02
- 2021年2月期 連結業績・配当予想 . . . P.15

- 中期経営計画 . . . P.19

- <参考資料> . . . P.36
- <Factsheet> . . . 別紙

2020年2月期
連結決算概況



連結決算サマリ

- 連結売上高は前期比9%の減収
- 連結営業利益は前期比54%の減益
- 設備投資は前期比52%の増加
- 研究開発費は前期比13%の減少

(単位：百万円)

	2019/2月期 通期		2020/2月期 通期		前期比増減	
	実績		実績	予想 (20/1/9付修正)	金額	%
売上高	18,408		16,772	17,000	△1,635	△8.9%
営業利益	1,223		558	600	△664	△54.3%
経常利益	1,326		582	600	△743	△56.1%
当期純利益	843		381	350	△462	-
一株純利益 (円)	50.15		22.79	20.90	△27.36	-
受注高	12,574		11,006	-	△1,568	△12.5%
受注残高	5,555		4,897	-	△658	△11.8%
設備投資	627		951	700	+323	+51.6%
減価償却費	344		386	350	+41	+12.1%
研究開発費	832		725	750	△106	△12.8%
ROA	4.8%		2.1%	-	-	-
ROE	6.4%		2.9%	-	-	-

機械部門：概況

● 分野別売上高

- 医薬品関連：ポストGE 80%後のGEメーカーの設備需要は引き続き低迷
新製品の拡販にも遅れ
- 産業関連：中国の電池市場の停滞もあり売上減収

● 分野別受注

- 医薬品関連：前期比13%減と受注高減少
- 産業関連：電池を除く需要堅調で前期比受注高増加

(単位：百万円)

	2019/2月期		2020/2月期	
	金額	前期比(%)	金額	前期比(%)
売上高	12,368	△ 14.1	11,118	△ 10.1
医薬品関連	10,160	△ 17.4	9,357	△ 7.9
産業関連	2,207	+5.0	1,760	△ 20.2
営業利益	737	△ 54.8	311	△ 57.8
受注高	11,839	+2.8	10,227	△ 13.6
医薬品関連	10,204	+6.8	8,478	△ 16.9
産業関連	1,634	△ 16.4	1,749	+7.0
受注残高	5,428	△ 6.8	4,695	△ 13.5
医薬品関連	5,039	+0.3	4,156	△ 17.5
産業関連	388	△ 51.2	538	+38.6
為替 (円/ドル：+は円安)	110.5	△1.0円/ドル	109.0	△1.5円/ドル

機械部門：グループ会社別動向

- 単体 : G E 設備投資一巡後の設備環境は引き続き厳しい
- FREUND-VECTOR社 : 大型案件の売上期ずれの影響で減収・減益
- フロイント・ターボ社 : 売上は減少したが受注高は前期比増加

(単位：百万円)

	2019/2月期 通期		2020/2月期 通期	
	金額	前期比(%)	金額	前期比(%)
売上高	12,368	△14.1	11,118	△10.1
単体 ※	7,075	△20.4	6,254	△11.6
FREUND-VECTOR社 ※	4,132	△5.1	3,994	△3.3
フロイント・ターボ社 ※	1,866	+8.3	1,522	△18.4
営業利益	737	△54.8	311	△57.8
単体	732	△48.6	308	△57.9
FREUND-VECTOR社	30	△64.4	△ 53	-
フロイント・ターボ社	△ 25	-	56	-
受注高	11,839	+2.8	10,227	△13.6
単体	6,671	+7.6	5,920	△11.3
FREUND-VECTOR社	3,989	+4.6	2,955	△25.9
フロイント・ターボ社	1,177	△21.3	1,351	+14.7
受注残高	5,428	△6.8	4,695	△13.5
単体	3,989	△0.3	3,863	△3.1
FREUND-VECTOR社	1,233	+1.3	436	△64.6
フロイント・ターボ社	205	△66.0	395	+92.0

※ 連結消去前

機械部門：地域別動向

- 日本 : GEメーカーの設備投資需要低迷、新製品投入の遅れで減収
- 北米・南米 : ブラジルが好調だったが、米国の売上の減収によりトータルで減収
- 欧州・アフリカ : 前期比増収となったが、引き続き低水準
- 中東・アジア・大洋州 : 中国向け案件が増加したが、その他地域の低迷によりトータルでは減収

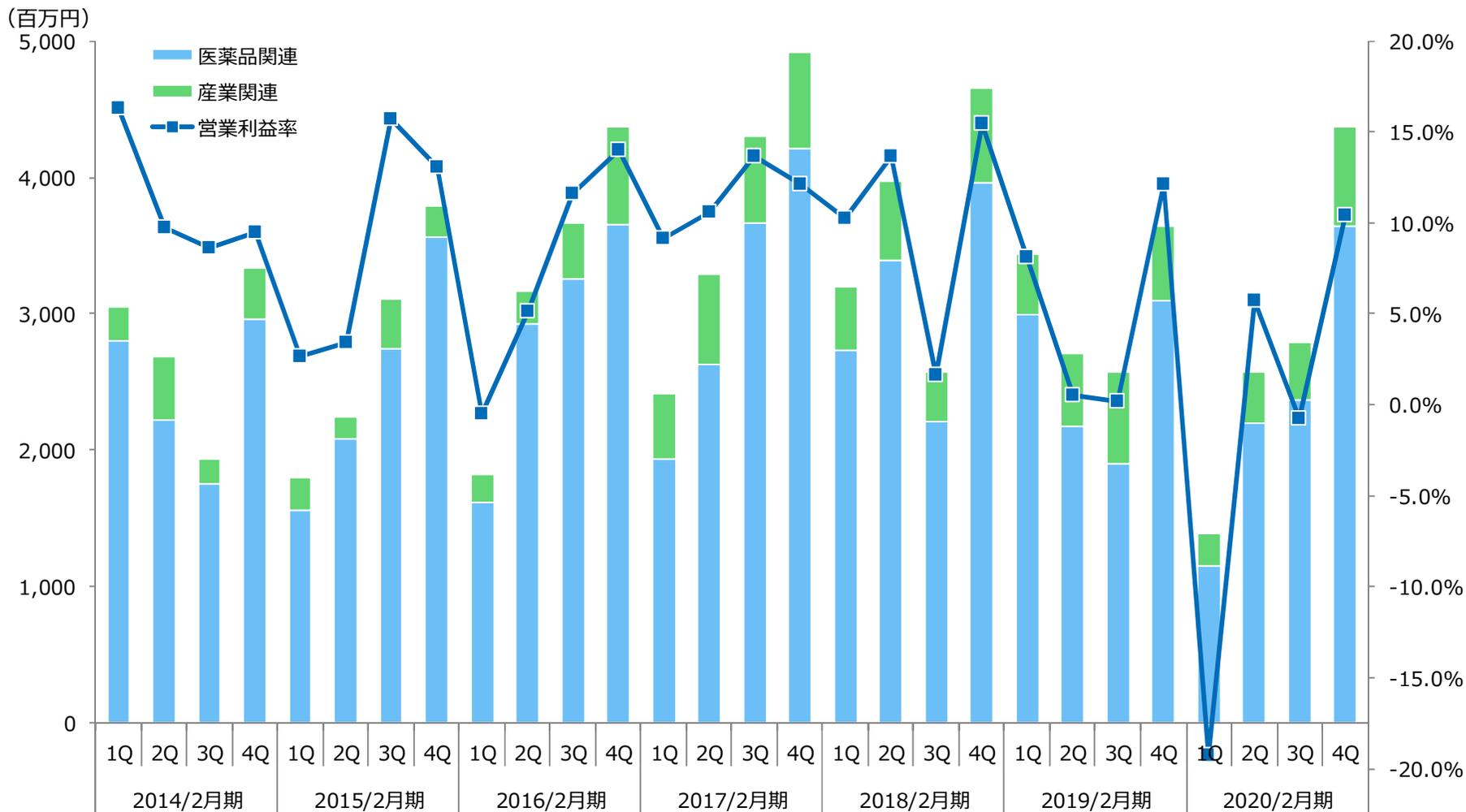
(単位：百万円)

	2019/2月期		2020/2月期	
	金額	前期比(%)	金額	前期比(%)
売上高	12,368	△14.1%	11,118	△10.1%
日本	7,312	△13.9%	6,696	△8.4%
海外	5,055	△14.5%	4,422	△12.5%
北米・南米	3,352	+12.5%	2,915	△13.0%
欧州・アフリカ	397	△77.7%	452	+13.8%
中東・アジア・大洋州	1,306	+13.8%	1,054	△19.2%

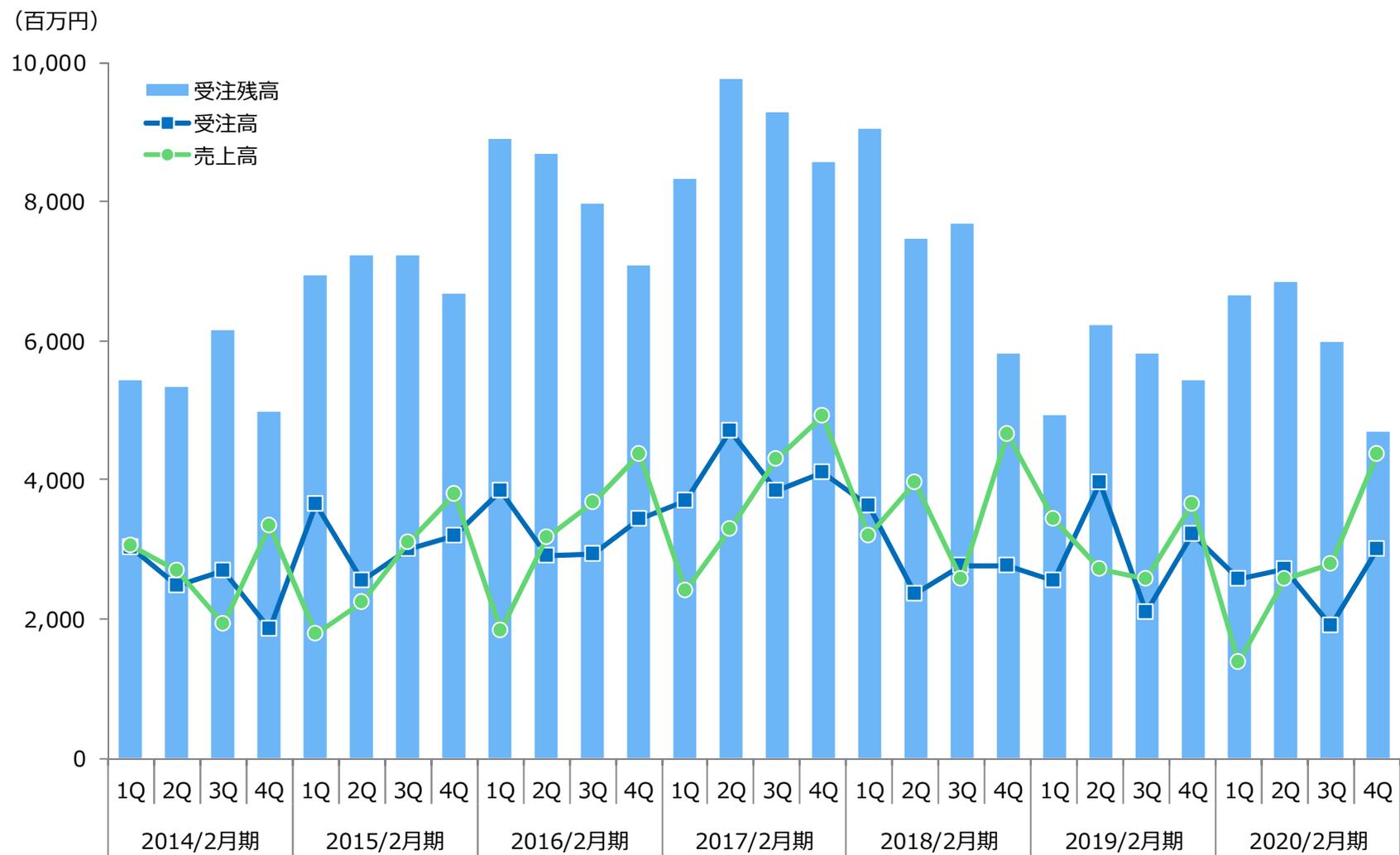
機械部門：四半期推移（分野別業績）

【売上高】

【営業利益率】



機械部門：四半期推移（売上高・受注高・受注残高）



化成品部門：概況

● 売上高

- 医薬品添加剤 : 国内は堅調、海外は特定ユーザーの在庫調整で減収
- 食品品質保持剤 : 前期比小幅の減収
- 新規食品 : 前期比小幅の増収
- 輸出 : 海外特定ユーザーの在庫調整で大幅減少

- セグメント利益 : トータルの減収に加え高採算案件の売上減により
前期比24%の減益

(単位：百万円)

	2019/2月期		2020/2月期	
	金額	前期比(%)	金額	前期比(%)
売上高	6,040	+11.9	5,654	△6.4
医薬品添加剤	3,195	+25.5	2,869	△10.2
食品品質保持剤	2,151	+2.9	2,079	△3.4
新規食品	693	△8.9	704	+1.6
(輸出売上高) ※ 1	353	+64.1	155	△55.9
営業利益	1,024	+27.9	781	△23.7

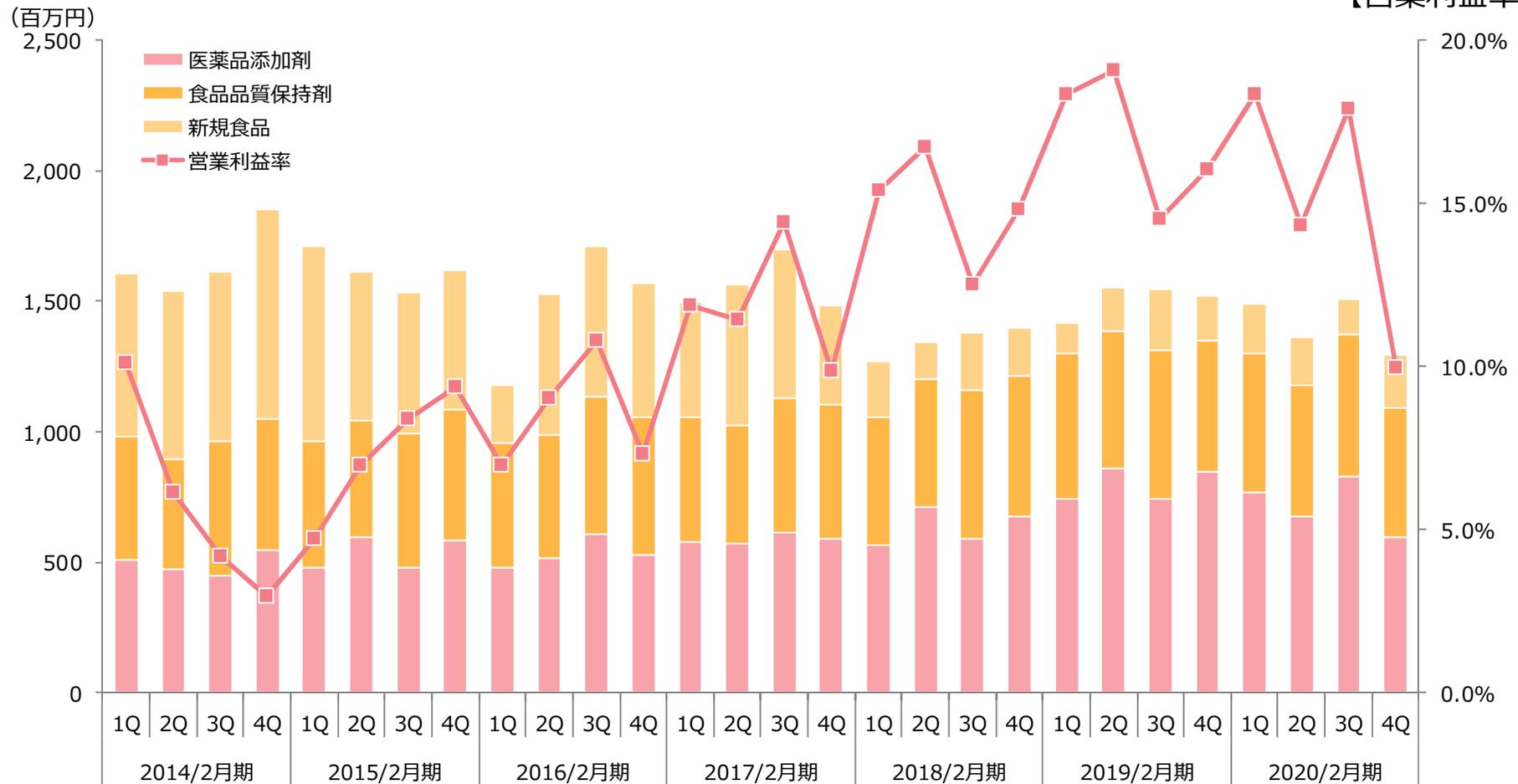
※ 1 主な輸出先：インド・韓国・中国・台湾 等

化成品部門：四半期推移（分野別）

- 医薬品添加剤はG Eメーカー向けを中心に堅調になるも海外向けが減収
- 食品品質保持剤はインバウンド需要の減少等で減収

【売上高】

【営業利益率】



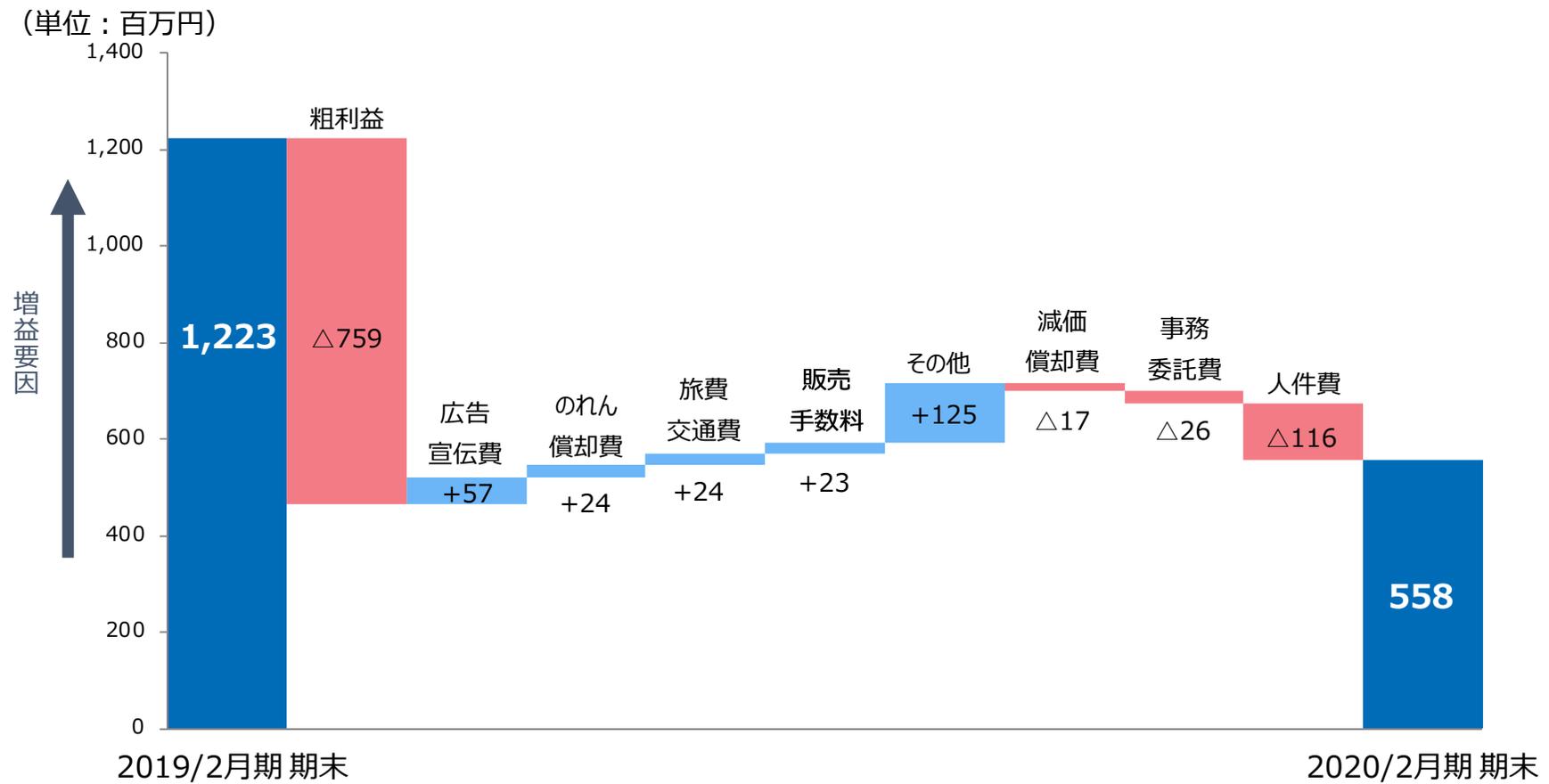
連結損益計算書サマリ

(単位：百万円)

	2019/2月期		2020/2月期		前期比増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	%
売上高	18,408	100.0%	16,772	100.0%	△ 1,635	△8.9%
売上原価	12,220	66.4%	11,344	67.6%	△875	△7.2%
売上総利益	6,188	33.6%	5,428	32.4%	△ 759	△12.3%
販管費	4,964	27.0%	4,870	29.0%	△94	△1.9%
営業利益	1,223	6.6%	558	3.3%	△664	△54.3%
営業外損益	103	0.6%	24	0.1%	△78	△76.3%
経常利益	1,326	7.2%	582	3.5%	△743	△56.1%
特別損益	△ 70	-	△ 14	-	+ 56	-
税引前利益	1,255	6.8%	568	3.4%	△687	△54.7%
当期純利益	843	4.6%	381	2.3%	△462	△54.8%

連結営業利益増減分析

- トップラインの減少をコスト削減で補えず



連結貸借対照表サマリ

(単位：百万円)

	2019/2月期末	2020/2月期	増減額
流動資産	12,711	13,193	+482
現金及び預金	5,534	4,314	△1,220
売上債権 ※1	4,332	5,431	+1,098
棚卸資産	2,475	3,051	+576
固定資産	4,736	5,311	+575
有形固定資産	3,769	4,209	+440
無形固定資産	16	96	+79
投資その他資産	951	1,006	+54
資産合計	17,448	18,505	+1,057
流動負債	3,938	5,023	+1,085
仕入債務 ※1	2,169	3,121	+952
前受金	666	775	+108
固定負債	258	237	△21
退職給付に係る負債	162	165	+2
負債合計	4,197	5,261	+1,063
純資産合計	13,250	13,243	△6

棚卸資産

- ・FREUND-VECTOR社の
売上の期ずれ分 … 371
- ・適正在庫の積み増し … 209

有形固定資産

- ・FREUND-VECTOR社のラボ改修

※1 電子記録債権債務含む

連結キャッシュ・フロー計算書サマリ

(単位：百万円)

	2019/2月期	2020/2月期
営業キャッシュ・フロー	435	△ 27
税引前利益	1,255	568
減価償却費	344	386
売上債権の増減額 (△は増加)	138	△ 1,106
たな卸資産の増減額 (△は増加)	615	△ 590
前受金の増減額 (△は減少)	△ 843	114
仕入債務の増減額 (△は減少)	△ 700	921
法人税等の支払額	△ 610	△ 324
投資キャッシュ・フロー	△ 566	△ 852
有形固定資産の取得による支出	△ 569	△ 835
財務キャッシュ・フロー	△ 921	△ 325
リース債務の返済による支出	△ 5	△ 3
連結の範囲の変更を伴わない 子会社株式の取得による支出	-	△ 25
配当金の支払額	△ 343	△ 333
現金及び現金同等物 増減額	△ 1,033	△ 1,220
現金及び現金同等物 期末残高	5,534	4,314

2021年2月期
連結業績・配当予想



連結業績予想サマリ

- 売上総利益：原価低減による粗利率改善への取り組み
- 販売管理費：単体・グループ会社でコスト削減
- 非医薬分野（化学・食品・健食等）向け案件の拡販を含め、グループトータルで収益の拡大

(単位：百万円/円)

	2020/2月期 (実績)	2021/2月期 (予想)	前期比増減	
			金額	%
売上高	16,772	17,800	+1,027	+6.1
営業利益	558	1,000	+441	+79.1
経常利益	582	1,000	+417	+71.6
純利益	381	700	+318	+83.5
一株純利益	22.79	41.80	+19.01	+83.4
為替(円/ドル：+は円高)	109.03	105.00	-	-
設備投資	951	-	-	-
減価償却費	386	-	-	-
研究開発費	725	-	-	-

部門別業績予想サマリ

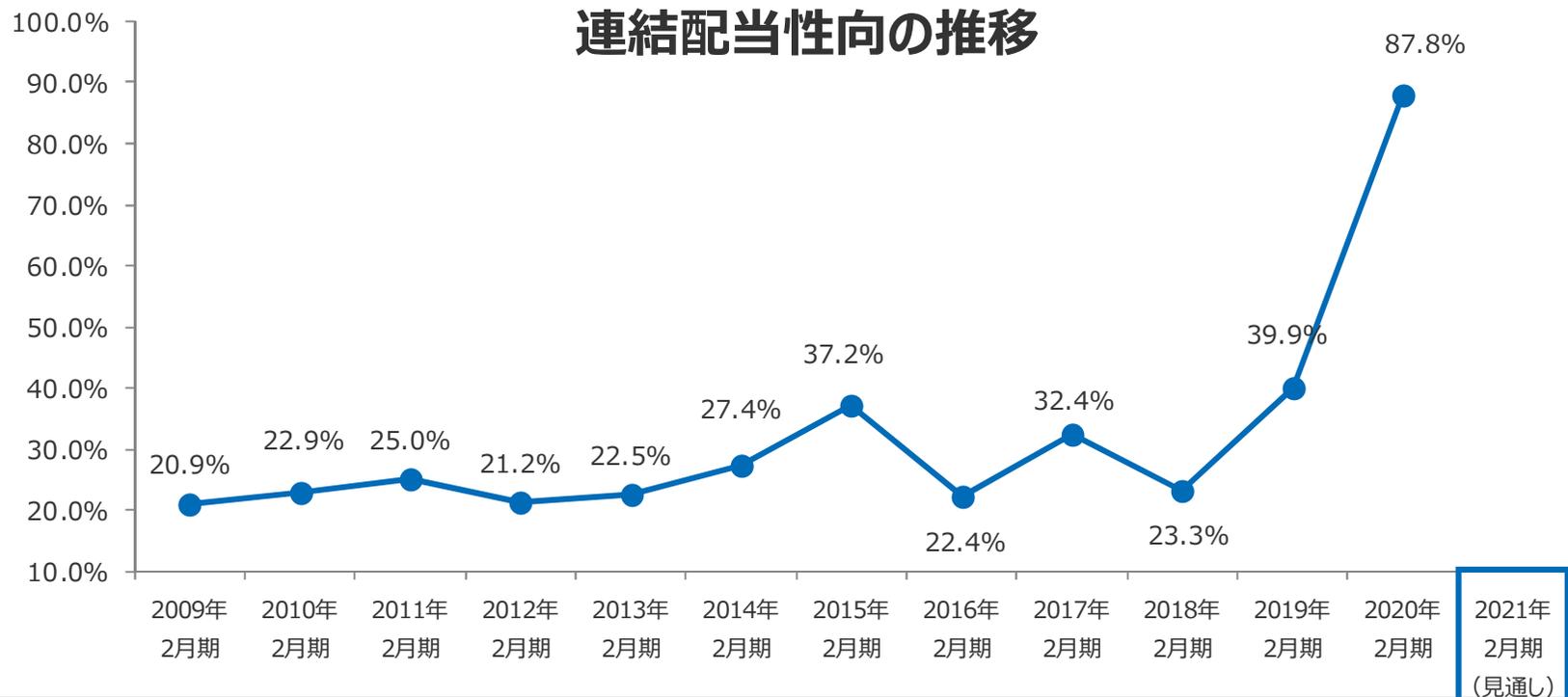
- 機械部門 : 受注精度の向上、メンテナンスビジネス拡大、海外拡販に注力
- 化成品部門 : 医薬品添加剤の国内拡販および海外向け新規案件の獲得

(単位：百万円)

	2020/2月期		2021/2月期 (予想)		前期比増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	%
連結売上高	16,772	100.0	17,800	100.0	+1,027	+6.1
機械部門	11,118	66.3	12,000	67.4	+881	+7.9
化成品部門	5,654	33.7	5,800	32.6	+145	+2.6
セグメント利益	558	100.0	1,000	100.0	+441	+79.1
機械部門	311	55.7	-	-	-	-
化成品部門	781	140.0	-	-	-	-
全社、消去	△ 534	△ 95.7	-	-	-	-
為替(円/ドル：+は円高)	109.03	-	105.00	-	-	-

配当予想サマリ

- 年間配当目標は30%、2020年2月期の配当性向は87.8%
- 2021年2月期の配当金、連結配当性向は現時点で未定とさせていただきます



当期純利益 (百万円)	619	563	516	608	765	787	695	961	1,064	1,477	843	381	-
1株当たり配当金 (円)	7.5	7.5	7.5	7.5	10.0	12.5	15.0	12.5	20.0	20.0	20.0	20.0	-
発行済株式総数 (千株)	4,600	9,200	9,200	9,200	9,200	9,200	9,200	9,200	18,400	18,400	18,400	18,400	-

(注) 2009年6月1日付け及び2016年3月1日付けで株式分割1対2を実施しており、2016年2月期以前の配当金は分割調整後の金額です。

第8次中期経営計画



Copyright(C) 2019 Freund Corp. All rights reserved.

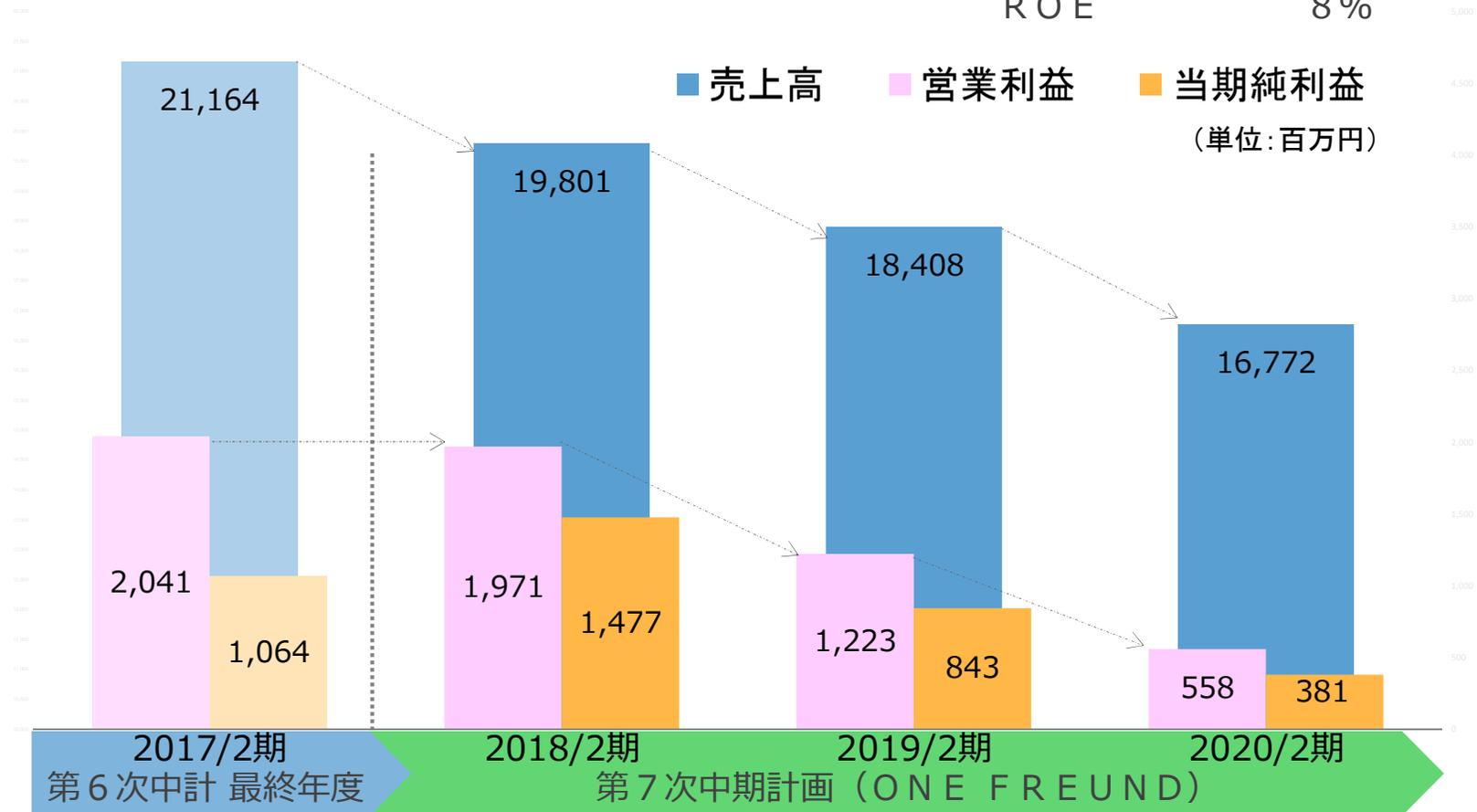


第7次中期経営計画の振り返り（業績推移）

- 国内G Eメーカーの設備需要の減少
- 新製品投入の遅れ及び競争の激化
- 海外展開の遅れ

■ 計画数値 ■

売上高	300億円
営業利益	30億円
営業利益率	10%
ROE	8%



【市場環境】世界の医薬品市場（地域別）

- 日本の市場規模は世界の7.1%（\$ベース）

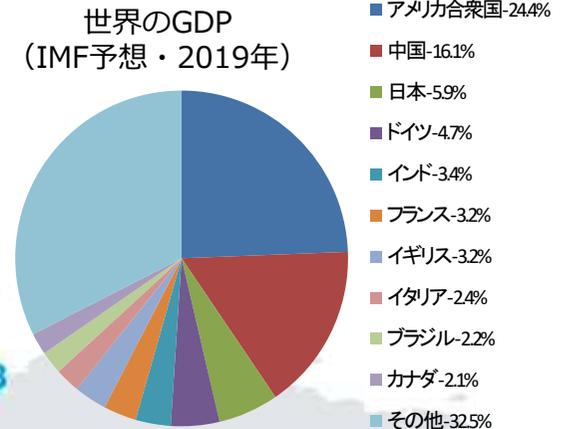


Exhibit 2:
Global Medicine Spending and Growth in Selected Regions, 2018-2023



Source: IQVIA Market Prognosis, Sep 2018; IQVIA Institute, Dec 2018

Notes: Market sizes shown in US\$ with actual and forecast exchange rates; growth shown in constant dollars at Q2 2018 exchange rates; Japan growth decline on constant dollar basis is due to exchange rate dynamics

【市場環境】 OTC&健康食品

OTC

OTC医薬品産業グランドデザイン
2025年に向け健康長寿社会の一翼を担うために

3本柱のビジョン

1. 国民の健康寿命延伸にセルフメディケーション・セルフケアが貢献
2. セルフメディケーション・セルフケアを実践するためのOTC医薬品の活用が拡大
3. 日本発のOTC医薬品がアジアに普及

	2015年	2025年
国内・海外 計	1兆3050億	2兆1500億 (CAGR5.05%)
国内	1兆1000億	1兆8000億
海外	2050億	3500億 (CAGR5.5%)

データ：日本OTC医薬協会 グランドデザインより

健康食品

拡大続ける機能性表示食品、縮小に転じる特定保健用食品

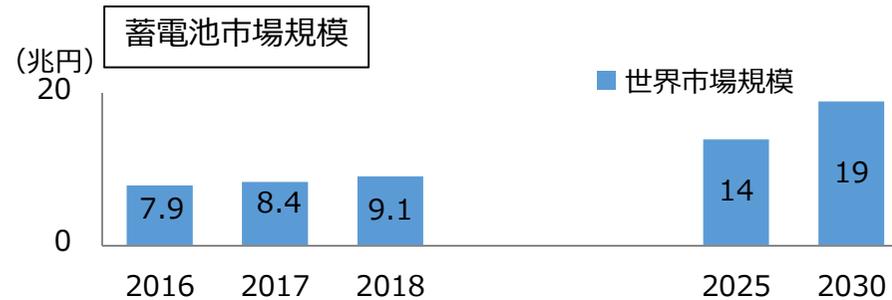
2018年市場

機能性表示食品全体 2,420億円 (前年比23.7%増)

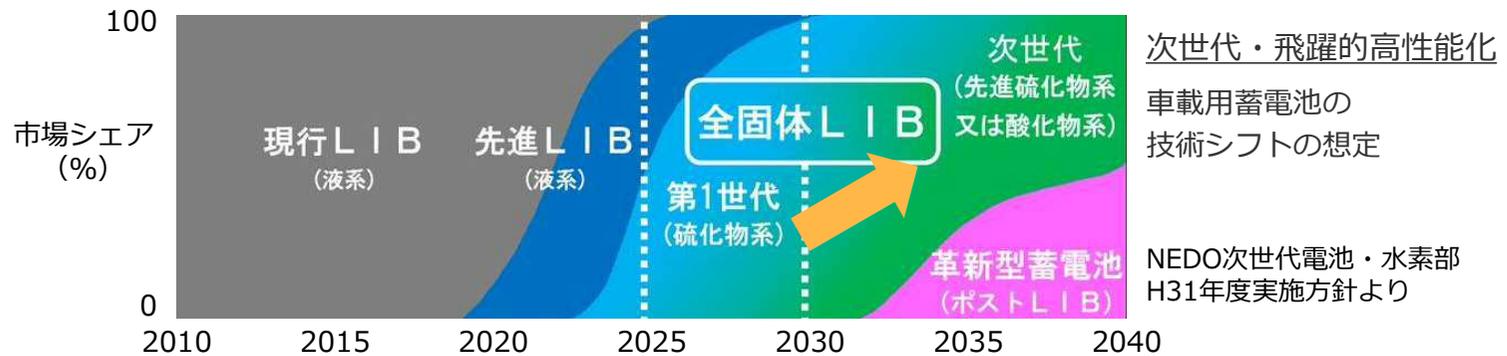
特定保健用食品 3,781億円 (前年比1.8%減)

【市場環境】 リチウムイオン電池

- 2000年台初頭のモバイル系では、国内蓄電池メーカーシェア90%を占めていたが、中韓蓄電池メーカーへの産業政策支援・大胆な設備投資により、20%となり、後塵を拝している。一方、車載用は2017年1兆円の市場規模に対し、40%台のシェア。2030年には9兆円になるとの予測もある。中国は国内を中心に伸ばしており、全世界で50%のシェアを持つに至っている。



- 日本は、全固体電池での復活を目指し、経産省、公的機関、産業界一体となり、イノベーションを創出している最中。第一世代と次世代に分けて技術開発を進めている。



第8次中期経営計画

企業理念

創造力で未来を拓く

経営ビジョン

フロイントグループは、
「世界中の人々の医療と健康の未来に貢献し、
豊かな生活・食の安全・安心を支える技術を生み出し、育成していくことを目指します」

大切にする価値

ONE
FREUND



特別な価値創造

それぞれの分野、事業で
No.1を目指す



完全顧客視点

顧客、社会にとって
Only Oneの存在を目指す



ネットワーキング

グループがひとつになる

基本戦略

顧客の真のニーズに技術力をもって応え、
持続的に利益成長する経営構造の実現を目指す

7つの経営目標

1. グループの連携
2. 完全顧客視点
3. イノベーション重視
4. グローバル経営
5. 成長戦略の実行
6. 業務改革と働き方改革の推進
7. コンプライアンス・コーポレートガバナンスの重視

第8次中期経営計画：7つの経営目標

1. グループの連携

グループ3社が一体組織としての意識を持ち、営業・開発で業務連携し、連結業績目標を達成する

2. 完全顧客視点

すべての面で最高の品質の製品を、お客様に満足できる価格とスピードをもって提供する

3. イノベーション重視

開発特化型企业として新製品開発に重点的に資源を投下するとともに開発計画の進捗管理を徹底する

4. グローバル経営

国内のシェアを高めつつ、顧客の海外市場シフトと海外市場の質重視のトレンドにグループ一体で対応する

5. 成長戦略の実行

M&A、事業アライアンス等により次の中計の基盤となる新事業の開拓、既存事業の非Organicな強化を図る

6. 業務改革と働き方改革の推進

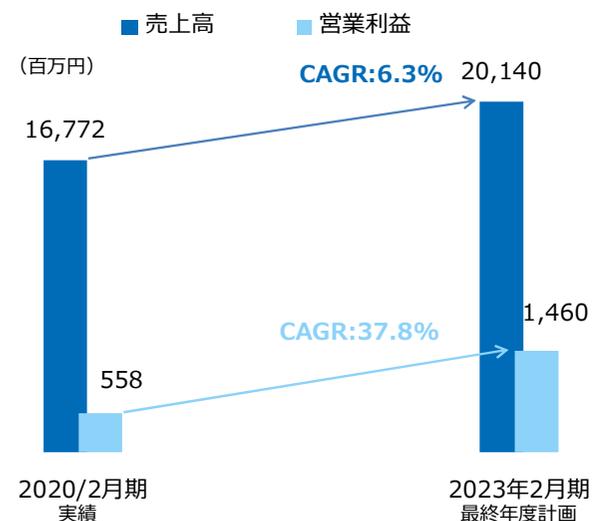
非効率な仕事を排除し、働きやすい職場と高効率な企業体質を実現する

7. コンプライアンス・コーポレートガバナンスの重視

生産・品質管理体制の向上、内部統制の充実を図り、顧客や社会の信頼に応える健全な事業体制整備を進める

第8次中期経営計画：数値計画

- グループ子会社と一体となった業務運営
- ユーザー視点の顧客満足度向上
- イノベーティブな製品開発
- グローバルでの事業拡大



(単位：百万円)

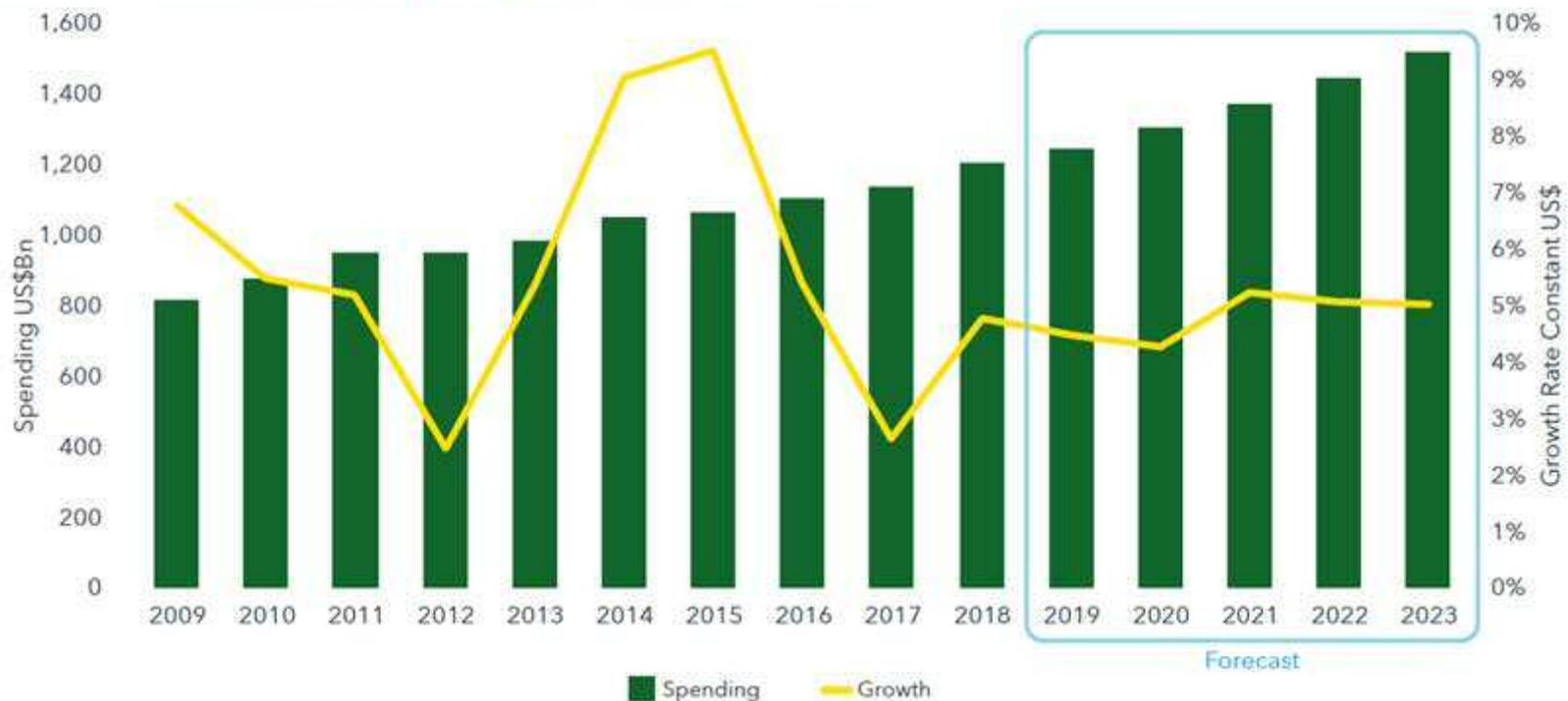
	2021年 2月期	2022年 2月期	2023年 2月期
売上高	17,800	19,050	20,140
単体	12,680	13,240	14,070
FREUND-VECTOR社	4,040	4,560	4,720
フロイント・ターボ社	1,800	1,900	2,000
営業利益	1,000	1,220	1,460
単体	850	900	1,050
FREUND-VECTOR社	70	150	220
フロイント・ターボ社	100	130	160

【参考資料】 市場環境：世界の医薬品市場

- 世界市場：2018年 130.5兆円
2023年 160兆円を超える

Global spending on medicines reached \$1.2 trillion in 2018, up from \$1.1 trillion in 2017, and is set to be just under \$1.3 trillion by 2019, with 4-5% growth globally. Global spending is expected to exceed \$1.5 trillion by 2023 as the market grows in mid-single digits (see Exhibit 1).

Exhibit 1: Global Medicine Spending and Growth 2009-2023

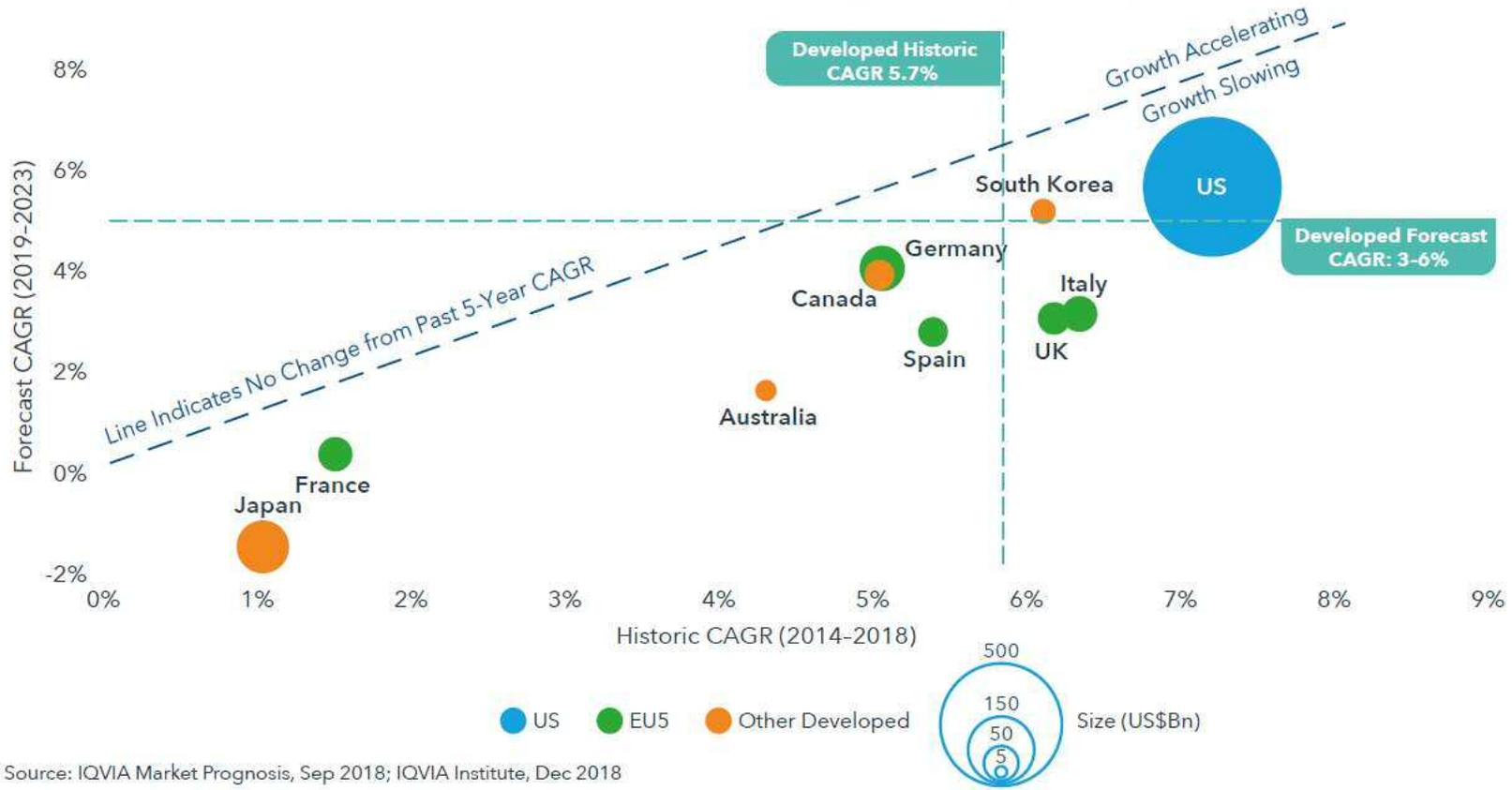


Source: IQVIA Market Prognosis, Sep 2018; IQVIA Institute, Dec 2018

【参考資料】 市場環境：世界の医薬品市場

- 総論：米国・EU・日本 2014-18の成長率より2019-2023は下がる

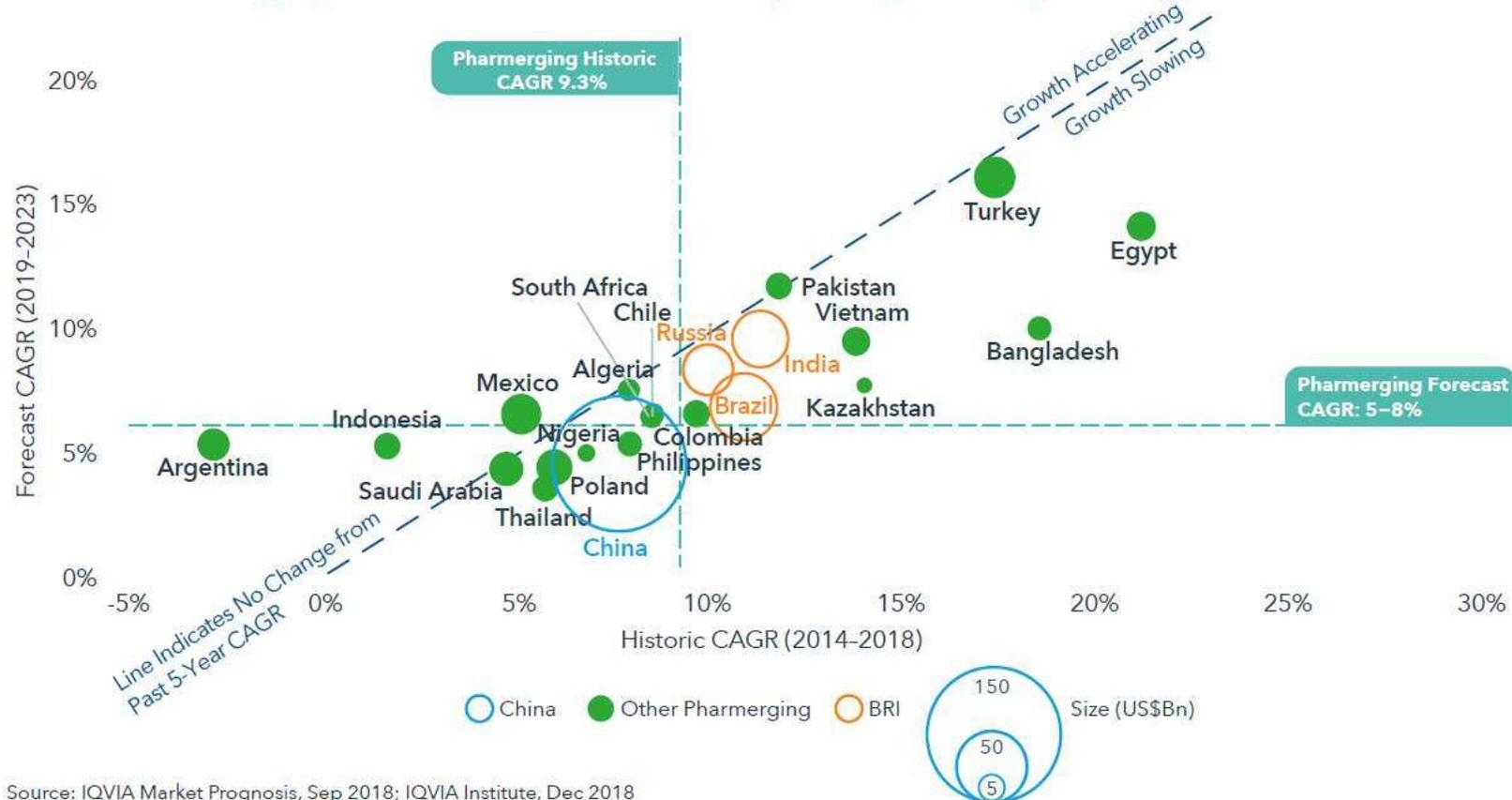
Exhibit 3: Developed Markets Historic and Forecast Spending Growth by Country



【参考資料】 市場環境：世界の医薬品市場

- 総論：米国・EU・日本 2014-18の成長率より2019-2023は下がる

Exhibit 4: Pharmerging Markets Historic and Forecast Spending Growth by Country

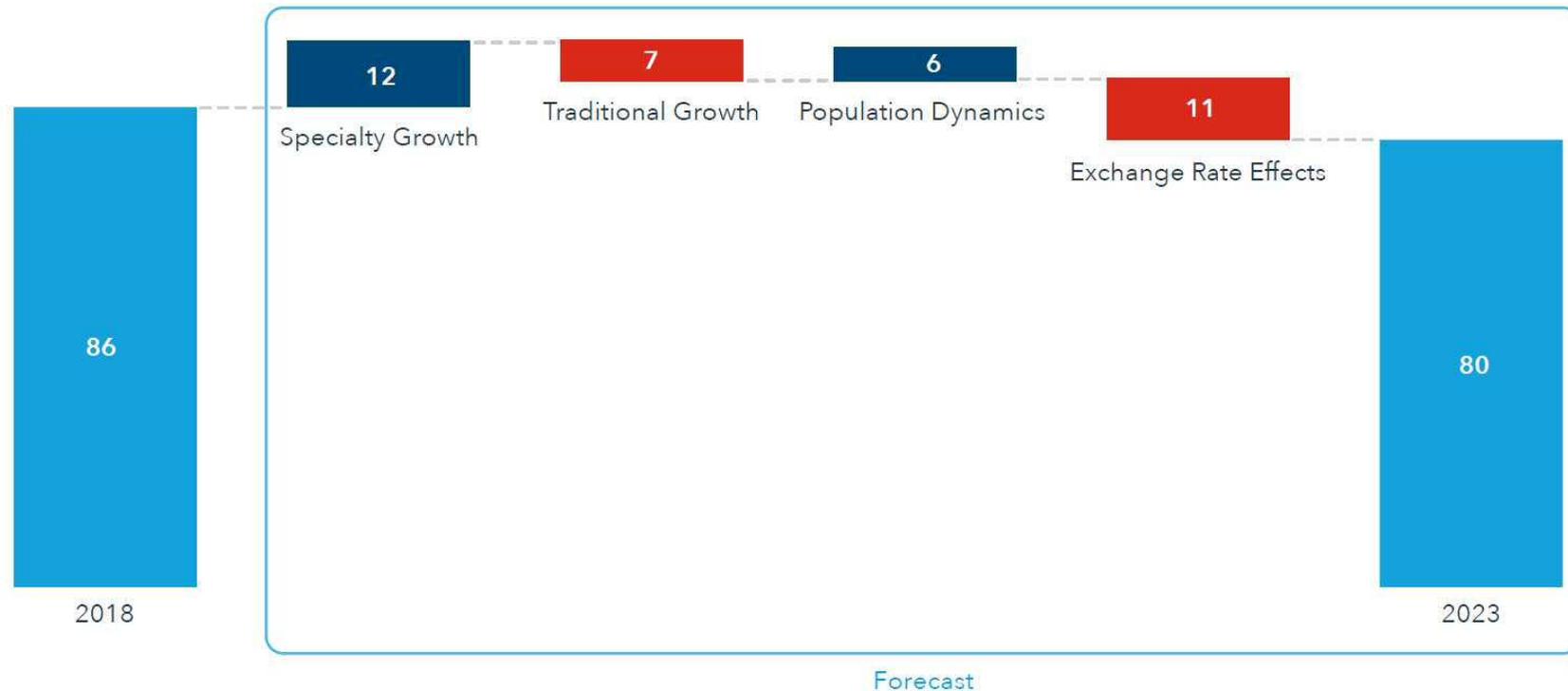


Source: IQVIA Market Prognosis, Sep 2018; IQVIA Institute, Dec 2018
 Notes: BRI = Brazil, Russia, India; Argentina is plotted in U.S. dollars

【参考資料】 市場環境：日本市場成長

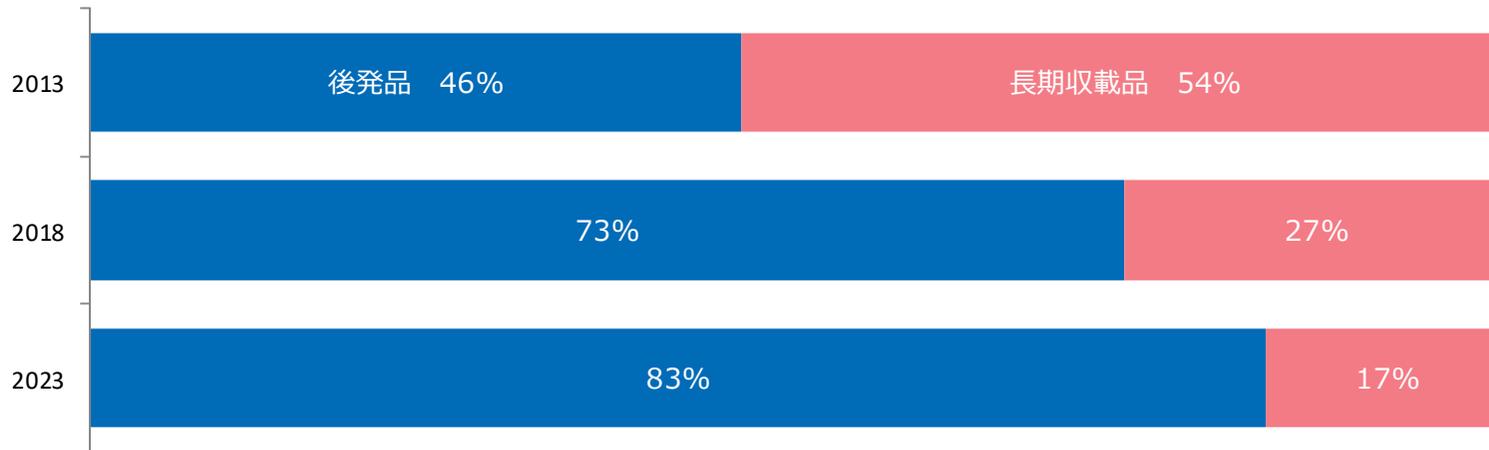
- 日本市場：-3%～0%の成長
 - 薬価引き下げに加え、後発品の使用拡大 23年には83%
 - 長期収載品は41%⇒17%に縮小
 - 抗がん剤などの特定領域がシェアを拡大 ⇒41%に

Exhibit 12: Japan Spending Growth Dynamics 2018-2023 Constant US\$Bn

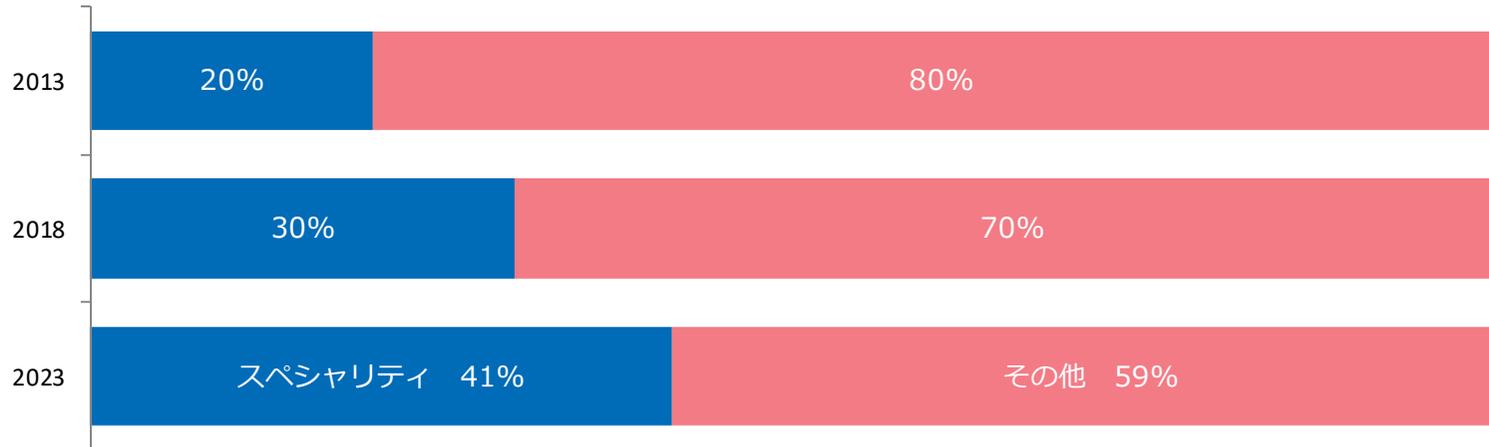


【参考資料】 市場環境：日本市場

日本市場 後発医薬品と長期収載品のシェア（数量ベース）



日本市場 スペシャルティ領域製品のシェア（金額ベース）



※IQVIA The Global Use of Medicine in 2019 and Outlook to 2023

薬価制度の抜本改革に向けた基本方針

『国民皆保の持続性』と『イノベーションの推進』を両立し、
『国民負担の軽減』と『医療の質の向上』を実現

薬価収載後の市場拡大への対応

毎年の薬価調査・改訂

イノベーションの評価



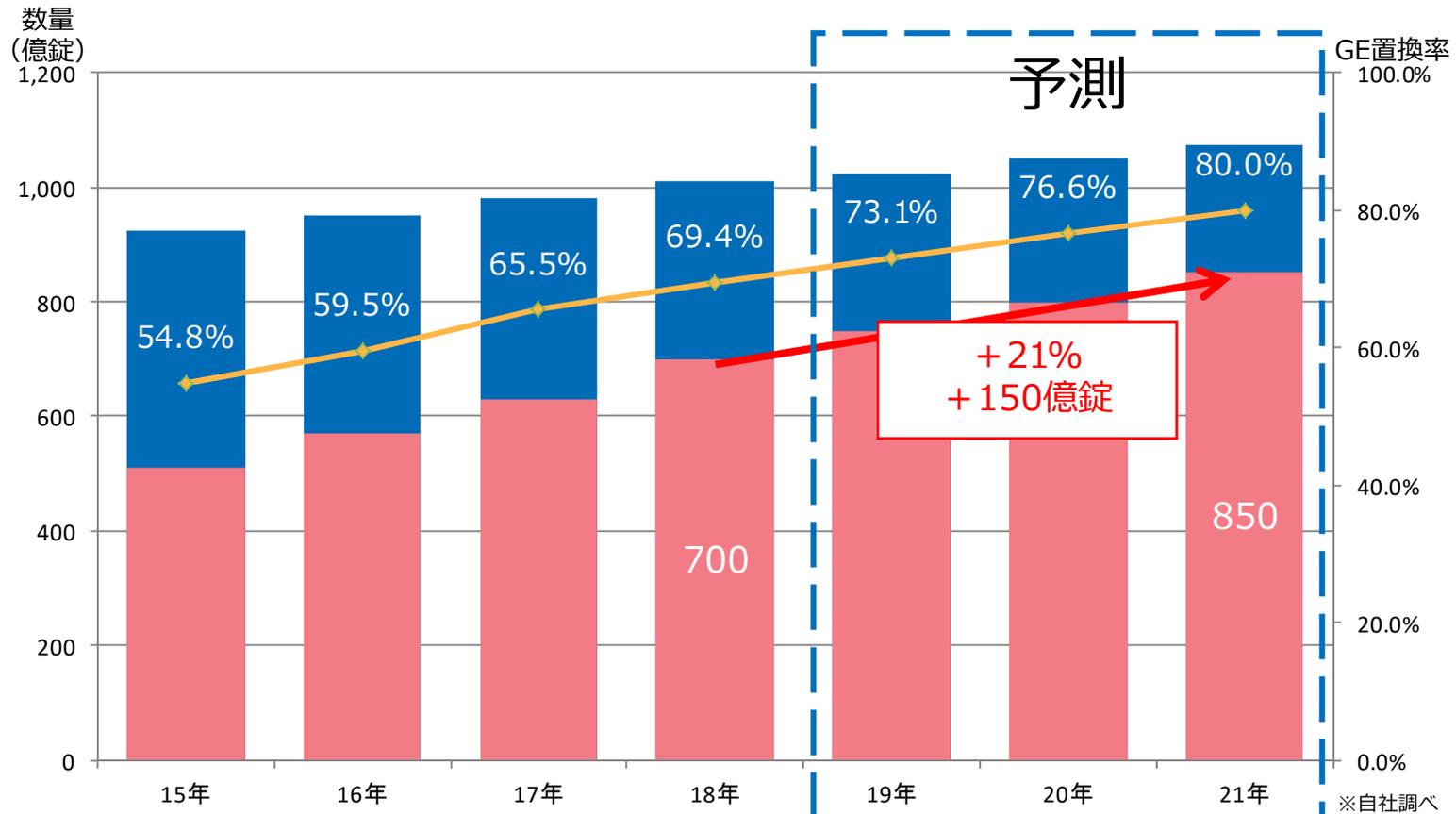
改革と合わせた今後の動き

- ・ 長期収載品に依存するモデルから、より高い創薬力を持つ産業構造への転換
- ・ 革新的バイオ医薬及びバイオシミラーの研究開発支援方策等の拡充
- ・ ベンチャー企業への支援、後発薬品企業の市場での競争促進

- 影にあるのは、
2017年 43兆円を超えた医療費 9兆は医薬品 ほっておくと、国民皆保険制度が崩壊
GE80%⇒約1.6兆円の削減を見込む

【参考資料】 市場環境：日本の錠剤数

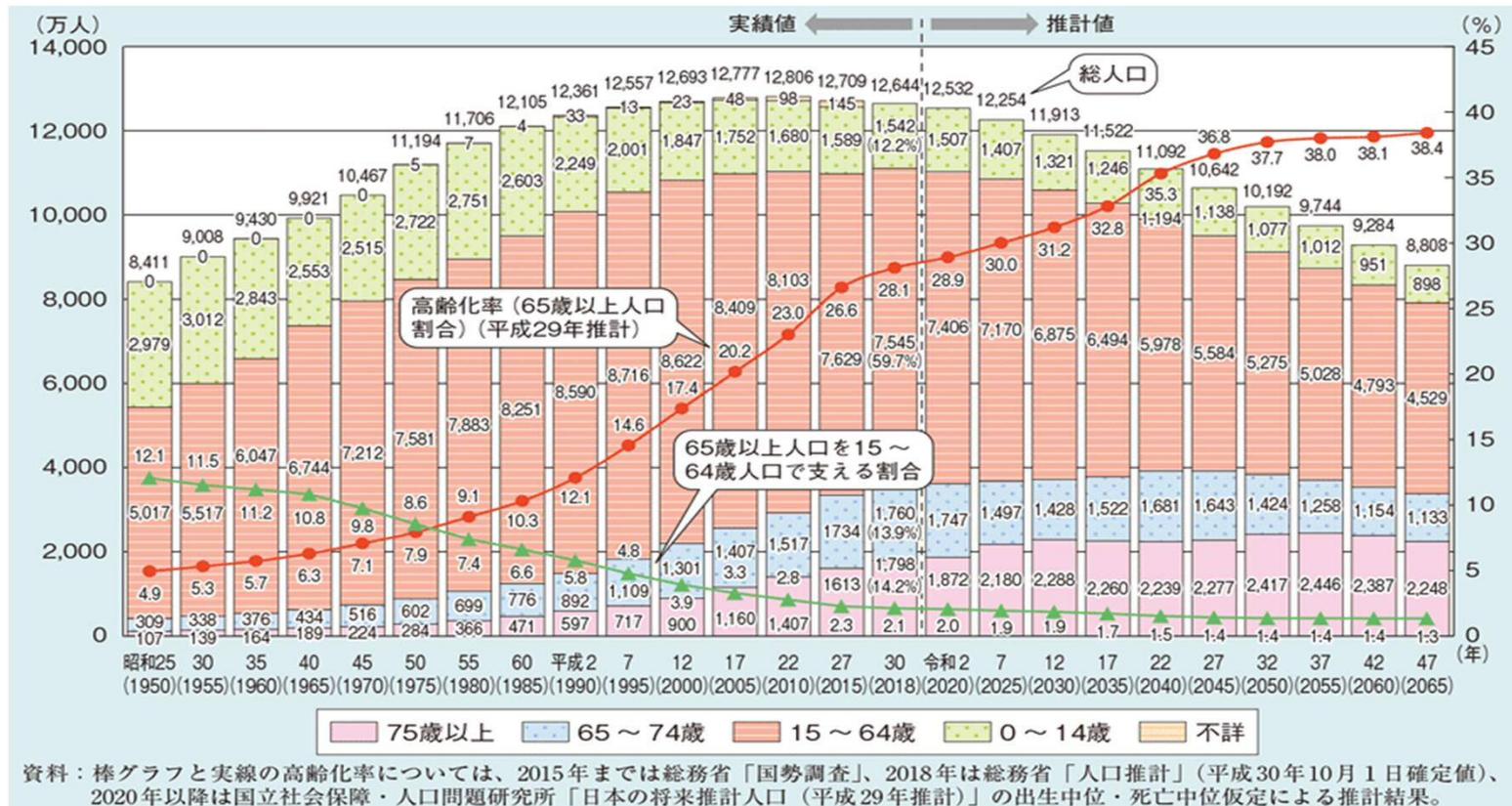
- 2020年9月のジェネリック数量シェア80%に向けてGE市場は拡大
- 市場規模は医薬品の適正使用推進の影響から2021年3月期で850億錠と予測



- 日本の錠剤数（経営企画推計）2021年 1,250 ~ 1,300億錠

【参考資料】市場環境：日本の人口推移（超高齢社会の意味）

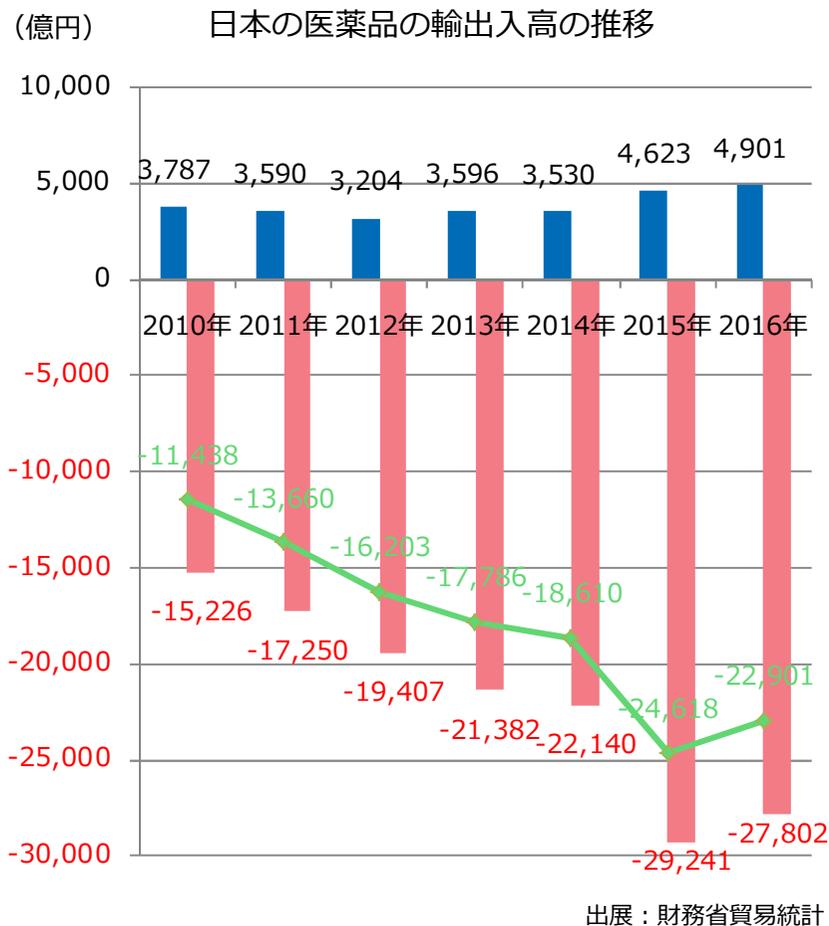
- 社会の高齢化率が急速に高まる中、社会保障費の拡大が財政を圧迫する原因となるとともに、労働力の減少に伴う経済活動の停滞が懸念される
- 他方、65歳以上の高齢者人口は横ばい、急速な高齢化は若年層の減少が原因



出展：内閣府 令和元年版高齢社会白書【高齢化の推移と将来推計】

【参考資料】 市場環境：医療用医薬品の輸入増加

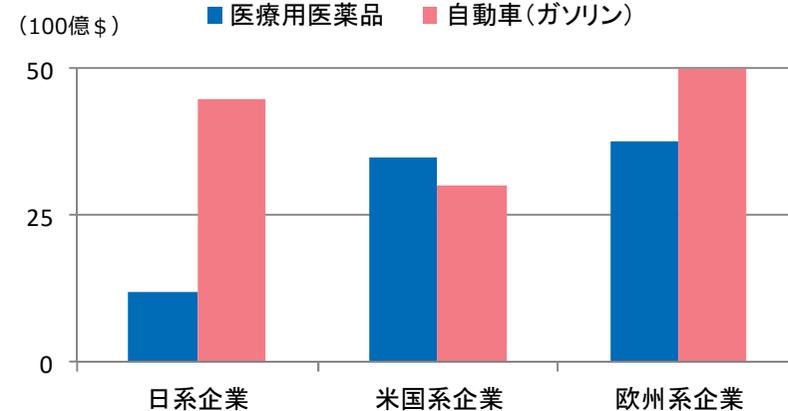
- 我が国からの輸出は過去10年間増加しておらず、輸入額は約3倍に増加
- この結果、約2.3兆円の輸入超過が発生



■参考■ EUからの主要輸入品の推移

	2001年 総額 54,119億円	2007年 総額 76,627億円	2013年 総額 76,489億円	2016年 総額 81,517億円
1位	自動車 5,998億円	自動車 7,233億円	医薬品 11,982億円	医薬品 15,505億円
2位	有機化合物 4,235億円	医薬品 6,344億円	自動車 8,347億円	自動車 9,497億円
3位	医薬品 3,770億円	有機化合物 5,858億円	有機化合物 4,803億円	有機化合物 4,214億円

■参考■ 創薬産業と自動車産業の売上比較



(参考資料)

- ・ プロフィール
- ・ セグメント情報

プロフィール

- 社名 : フロイント産業株式会社
 - 設立 : 1964年4月
 - 代表者 : 代表取締役社長 伏島 巖
 - 所在地 : 東京都新宿区西新宿六丁目25番13号
 - 資本金 : 10億3,560万円 (2020年2月末現在)
 - 売上高 : 167億円 (2020年2月期 : 連結)
 - 従業員 : 383名 (2020年2月末現在 : 連結)
 - 事業内容 : 機械事業 …… 造粒・コーティング装置等の製造販売
化成品事業 …… 医薬品添加剤、食品品質保持剤等の製造販売
 - グループ会社 : FREUND-VECTOR CORPORATION
フロイント・ターボ株式会社
Parle Freund Machinery Private Limited
-

フロイントグループ各社と R & D 拠点

フロイント産業
株式会社

フロイント・ターボ
株式会社

FREUND-VECTOR
CORPORATION

神奈川県横須賀市

米国/アイオワ州

独創的技術での
グローバル化を
積極的に推進



技術開発研究所 (静岡県浜松市)



マリオン・ラボ (米国/アイオワ州)



ミラノ・ラボ (イタリア)

国内ユーザー

機械装置/
化成品の販売

海外ユーザー

機械装置/
化成品の販売

ParleFreund (インド)

ビジネスモデルの特徴は「Pen」と「Ink」

1. 機械部門



- 医薬品、食品、ファインケミカルなどのさまざまな分野向けに造粒、コーティング装置などを製造・販売
- コーティング装置の国内販売シェアはトップ
アジア市場に加え、米国子会社の欧・米展開も加速
世界で製剤技術と機械装置を唯一共有する
- 造粒・コーティング技術に粉碎・分級技術を融合させることで産業向け装置の拡販も注力

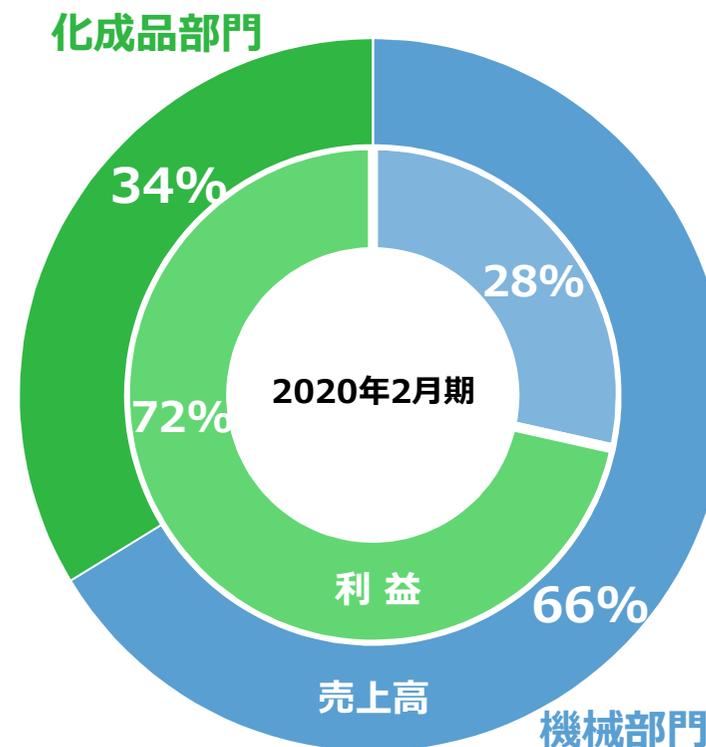
2. 化成品部門



- 医薬品添加剤、食品品質保持剤、栄養補助食品などを製造・販売
- 医薬品添加剤は、GMP※1対応設備で生産
- 食品品質保持剤は、さまざまな食品の品質保持に利用され、安全な食生活に役立つ
- 造粒・コーティング技術を用い、ユーザーとの共同開発で栄養補助食品やシームレスミニカプセルを商品化

※1 GMP : Good Manufacturing Practice

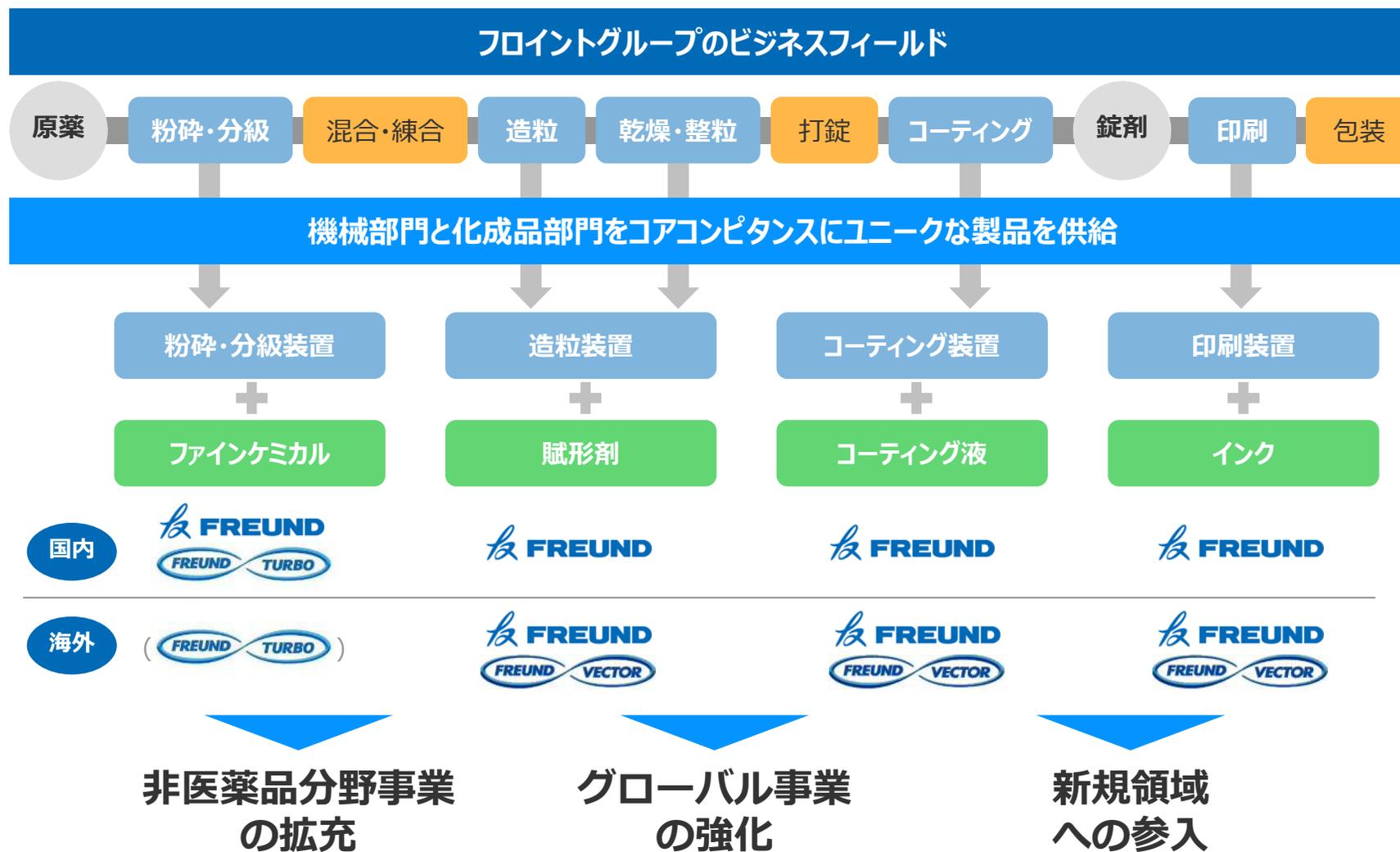
セグメント別 売上高及び利益構成



連結売上高 167.7 億円
連結営業利益 5.5 億円

グループのビジネスフィールド

- 医薬品の製造工程に基づくフロイントグループの事業領域



フロントグループ ディスクロージャーポリシー

1. 情報開示の基本方針

当社は、広く社会に信頼される企業として、経営の透明性向上を重要な責務のひとつと考えています。その考えに基づき、すべてのステークホルダーの皆さまに、会社情報の公平かつ適時適正な開示を継続的にを行います。

2. 情報開示の基準

当社は、会社法、金融商品取引法などの関係法令および当社が上場する証券取引所が定める適時開示に関する諸規則にしたがって、情報開示を行います。

当社は、関係法令および適時開示に関する諸規則に該当しない情報であっても、株主・投資家の皆さまの投資判断にとって必要であると考えられる情報については、積極的に開示いたします。

3. 情報開示の方法

当社は、東京証券取引所の提供する適時開示情報伝達システム（Timely Disclosure network、以下「TDnet」という）を通じて情報を開示いたします。TDnetにより開示した情報は、情報開示の適時性・公平性に配慮し、速やかに当社のインターネットホームページに掲載いたします。

そのほかの情報についても、適時開示の趣旨に則り、プレスリリース、当社のインターネットホームページへの掲載などにより公平かつ迅速に開示いたします。より多くのステークホルダーの皆さまに分かりやすい開示を行うため、開示情報は日本語とあわせ、その英訳の開示に努めます。

4. インサイダー取引の未然防止

当社は、内部情報の適切な管理および株式などの売買などについて遵守すべき基本事項を社内規則に定め、インサイダー取引規制の周知徹底と株式などの売買管理体制の適切な運用により、インサイダー取引を未然に防止します。

5. 沈黙期間

当社は、決算情報の漏洩を防止し、法令遵守および公平性を確保するため、各四半期決算期日の翌日から当該決算発表日までを「沈黙期間」と定めます。当該期間中は、決算に関連するコメントや質問・照会に対する回答は差し控えさせていただきます。ただし、業績が予想と大きく乖離する可能性がある場合には、適時開示に関する諸規則に従い適時適正に開示いたします。

6. 将来予測について

当社が開示する情報の中には、業績予想以外にも戦略、事業計画などの将来予測に関する情報が含まれておりますが、これらの情報は作成段階において入手可能な情報をもとに判断したものであり、その後の経済情勢や市場環境の変化などによって、将来予測は大きく異なる可能性があります。

(2017年3月27日制定)

I R活動の方針

当社は、2017年3月27日に取締役会で決定された以下の方針に基づきIR活動を実施しています。

株主・投資家との建設的な対話に関する方針

当社は、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をめざし、株主・投資家の皆様との建設的な対話を積極的に進めます。当社の経営方針や経営状況、企業文化をわかりやすく説明し、株主・投資家の皆様のご理解を得て、「FREUNDファン」として継続的にご支援いただけるように努めます。

1. 推進体制株主・投資家の皆様との対話

IR担当部署の経営企画部が担い、社長が統括します。また、IR管掌取締役が社長を補佐します。

株主の皆様との対話を促進するため、社内に関連部門は、開示資料の作成・審査や必要な情報の共有など、積極的に連携を図り、公正且つ迅速に情報開示を行います。

2. ステークホルダーとの対話

当社は期末及び第2四半期の決算説明会（第1・3四半期はスモールミーティング）を実施し、その情報は当社ウェブサイト公開します。また、中長期経営計画を策定した際には、経営戦略や経営計画についてわかりやすく説明いたします。さらに、機関投資家への訪問も積極的に実施し、経営方針や業績の説明を行います。また、証券会社主催の投資家フォーラムや個人投資家説明会等にも参加します。

株主通信やFREUND Report（統合報告書）の発行、ウェブサイト専用ページ（<http://www.freund.co.jp/ir/>）の開設などにより、事業や財務情報とともに財務諸表に載らない資産（見えない資産）を紹介することで当社グループの企業価値を正しくご理解いただけるように、情報開示の充実に努めます。

3. 株主・投資家からの意見を社内へフィードバックする仕組み

株主・投資家の皆様との対話において把握された意見は、社長、取締役や関係各部に適宜報告し、情報を共有します。

4. インサイダー情報の管理

各四半期の決算期末日より決算発表日までの期間はサイレント（沈黙）期間とし、投資家の皆様との対話を制限しています。インサイダー情報については、社内の内部情報管理・内部者取引規制に関する規程に従い、情報管理の徹底を図っています。

〈お問い合わせ先〉
フロイント産業株式会社
経営企画部 IR/広報室

TEL:03-6890-0767
FAX:03-6890-0870
E-Mail : ir@freund.co.jp

当社IRサイトもご覧ください。 <http://www.freund.co.jp>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。